



日本最大規模のAudi 正規ディーラー店舗数を展開し、環境へ配慮した電気自動車「e-tron」の販売拡大に取り組んでいる「アウディジャパン販売」とサステナブルファッションブランド「ECOALF」は、より多くの方にサステナブルに繋がる新たなライフスタイルを届けるため2024年の1年間にわたり商品開発や販促施策において協業をしています。このたび夏のキャンペーンとしてペットボトル由来のリサイクルマテリアルを生地とし、「未来のe-モビリティ」をテーマとしたサステナブルTシャツを作成するため自由な発想、新しい考えかたを持つ学生の方々からデザインアイデアを募集します。

※参考：2024年1月(第1弾のコラボキャンペーン)

https://www.audi-sales.co.jp/campaign/audi_sustainable_campaign/

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000614.000009154.html>

- 募集内容 2024年7月下旬からECOALFで販売するTシャツのデザインを募集します。
- 主催 アウディジャパン販売株式会社 <https://www.audi-sales.co.jp/>
ECOALF <https://store.sanyo-shokai.co.jp/pages/ecoalf>
- デザインテーマ 未来のe-モビリティ
- 募集期間 2024年5月27(月)～6月10日(月)
- 選考結果 2024年6月中旬 結果発表は、受賞者に運営会社よりご連絡します。
- 採用作品賞金
グランプリ 1名 賞金 50,000円 さらにオリジナルTシャツ完成後、進呈。
未来のe-モビリティ賞 1名 賞金 30,000円
サステナビリティ賞 2名 賞金 10,000円

【グランプリ】

選考基準：Tシャツとして「着たい」と思わせるデザイン。

Audi Japan SalesとECOALF のコラボレーションTシャツのデザインとして起用されます。ECOALF のオンラインサイトおよび店頭で販売します。(100～150着前後想定)時期は7月下旬を想定。ECOALFのオンラインサイトでの販売の際に、大学名とお名前を掲載いたします。※他の露出の可能性もあり。

【e-モビリティ賞】

選考基準：未来のe-モビリティを豊かな発想で表現しているデザイン。

【サステナビリティ賞】

選考基準：サステナビリティが感じられるデザイン。

- 応募資格 応募時に日本国内で在学中の学生
- 審査員 アウディジャパン販売株式会社、ECOALFの社員
- 応募方法 右記アドレスにメールで送付 ajs_team@san-an.co.jp
メール本文に下記①～⑤を記載してください。
①お名前 ②フリガナ ③大学名・学部・学科 ④電話番号 ⑤メールアドレス⑥デザインコンセプト200文字以内
- 出品料 無料
- 提出データ規格 jpgまたはPNG ※1応募で複数作品の応募は可とします。
- 注意事項 **※デザインに、Audi、e-tronの文字やAudiのフォーリングスロゴ等、直接的な表現は使用NGとします。**
※各賞は、「該当者なし」となる場合があります。
- 著作権の扱い 受賞作品の著作権及び知的財産権は主催者に帰属し継続して使用、販売できるものとします。
(受賞作品は他で使用することはできません)。
- お問い合わせ窓口 運営会社 株式会社産案 メールでお問い合わせください。
ajs_team@san-an.co.jp



Audiの電気自動車「e-tron」

Audiの電気自動車 <https://www.audi.jp/e-tron/>

Audiのe-mobility <https://www.audi.co.jp/jp/web/ja/brand/sustainability/electric-mobility.html>



Audiの電気自動車



Audiのe-mobility



ECOALF

地球環境を守るために服をつくる
サステナブルファッションブランド「ECOALF」



<https://store.sanyo-shokai.co.jp/pages/ecoalf>

「ECOALF (エコアルフ)」は創業者ハビエル・ゴジェナーチェが自身の子どもが生まれたことを機に次の世代に残すべき世界について考え2009年にスペインで立ち上げられたサステナブルファッションブランドです。

“Because there is no planet B®” (第2の地球はないのだから) をスローガンに、

すべてのアイテムを再生素材や環境負荷の低い天然素材のみで製造し販売しています。

ファッション産業が世界で2番目に環境を汚染している産業と言われる中で、ペットボトル、タイヤ、漁網などを独自の技術でリサイクルしてこれまで400種類以上の生地を開発し新たな製品をつくり出しています。